

三重県における飼料用(知事特認)品種「あきだわら」の多収栽培法

利用対象：「あきだわら」栽培農家

「あきだわら」の移植日と出穂期、成熟期の関係は、「みえのゆめ」とほぼ同じです。多収を実現するには、5月中下旬移植とし追肥を増肥します。

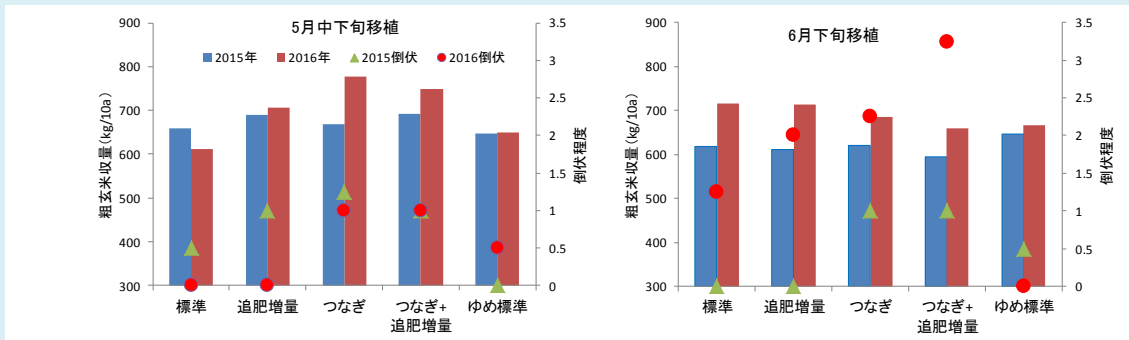
年	播種	移植日	品種	出穂期	成熟期
平成27年	5月8日	5月25日	あきだわら	8月11日	9月23日
			みえのゆめ	8月10日	9月23日
平成28年	6月5日	6月22日	あきだわら	8月25日	10月12日
			みえのゆめ	8月25日	10月9日
平成28年	4月22日	5月11日	あきだわら	8月3日	9月7日
			みえのゆめ	8月3日	9月7日
平成28年	6月3日	6月20日	あきだわら	8月21日	10月4日
			みえのゆめ	8月22日	10月4日

「あきだわら」の移植日と出穂期、成熟期の関係は、「みえのゆめ」とほぼ同じです。

追肥時期の検討結果から、追肥増量区が倒伏が少なく安定して多収となりました。つなぎ肥を施用すると倒伏の危険が高まりました。

また、6月下旬の移植では、増肥効果が見られず、5月中下旬移植に比べて収量は低くなり、倒伏の程度が大きくなります。

* 標準は窒素施肥量を 10a あたり基肥 5kg、出穂 20 日前追肥 3kg、出穂 10 日前追肥 3kg とし、つなぎ肥は出穂 30 日前に 4kg を追加し、追肥増量は 2 回の追肥をそれぞれ 5kg とした。



多肥栽培により発病が助長されるいもち病や紋枯病に対しては、あらかじめ予防的防除を行います。「あきだわら」は、いもち病に対して弱いので十分に注意します。省力のための緩効性肥料は、「みえのゆめ」用のものが利用可能です。

お問い合わせ先	三重県農業研究所 農産研究課 中央農業改良普及センター 地域農業推進課	田畑茂樹 芳尾知也	電話0598-42-6359 電話0598-42-6323
参考になる資料	三重農研HP: http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm		